

上田郷友会北米支部の発足当時の記録

北米支部の発足は大正14年1月に遡ります。上田郷友会の滝澤七郎幹事が当時東京市会議員であった頃、世界一周旅行の途上、最後の訪問地ロサンゼルスに立ち寄った時に、長野県上田地方からロサンゼルス近郊に移住されて居た方々が、歓迎会をしたことが嚆矢でした。同年4月5日（第1日曜日）ロサンゼルスに在住されて居た浦田恵佐次郎氏宅で月例会が開かれ、その月例会報告が下記です。その後北米支部では東京へ月例会報告を日米関係が悪化して連絡が出来なくなるまで続けました。

そして戦後は、昭和23年7月に丸山音五郎氏から滝澤七郎氏に贈り物が届いてから、再び東京と北米支部との連絡が再開されました。

北米支部第一回例会

堤 章

四月五日（第一日曜日）午後一時より四時迄の間浦田君の住宅、東第三街二八二三番に第一回例会（茶話會）を開きたる處濱村一雄君、出野春雄君、原宮治君不參新入會員清久文太郎君を加へ左の諸君出席致され候
浦田毛佐次郎 溝口 功 木村 武
大井四子恵 丸山 清作 丸山音五郎
荒井九萬太 清久文太郎 堀内 茂
青木 梅作 秋山英之助 平林 直治

四月二日に全部の諸君に通知して置いたが天気模様が一週間位前より晴々ともせず加ふるに風邪も流行して居る時で而も當地も其御多聞に洩れず一般に不景氣である故集まつて來られるか何かと云ふ懸念であつたが時間になると流石は時の國丈けに二時迄には前記の顔觸を見賞に嬉しく感じ申候、因に列席の諸君は四十歳

一七

備 考

前後の一家の主人にて在米永きは三十年短きも十五年随分水い間である郷友集つて懐舊の情を味ふと云ふ此種の會が今迄無かつた爲めか又は進歩した思想に若返つた爲めか孰づれに致せ當地としては盛會と申す事候、話題は別になく郷里を中心とす時代、他の友人、親戚、昔より今に轉々何時止むと云ふ時もなく借ては各自の子供の語に移り近く御目出度く土産あるべき丸山音五郎君の未來の男の子としての名前の選擇出生届出の日米何づれなる哉等又先月に月報の同名異人表中堤章が有之又當地に第三目目が出て來られ薩か鹿兒島縣人であつたと記憶致居候、此分では未だなく澤山あるべく何んとか符號を付けねばなるまいなど順次枝が出て花が咲き申候、最後に青木君も嘗て上田中學校に英語教師として居られた安藤先生には先頃英國倫敦にて病氣永眠の由通信ありたるにつきては同先生に教を受けられたる諸君もあるべく一所に追平會を催すべく各知人に通知する事等の話も出で豫定の午後四時は何時過ぎたる事か更に御承知なく五時に近き頃街物足らぬ顔にて散會致候、浦田君の指命にて會計に溝口君幹事に小生と申す至つて筆不精者を定められ候謹

一八

で御受け致候者の在米二十年以上凡て日本の學問は其二十年以前の小學校時代の其儘で不文不識宜敷御取捨被下度候
例會場は尙當分浦田君住宅に毎月一回第一日曜日最少限五十仙會費にて凡て簡單に心安く家族も同伴集まると云ふ事に定まり候
新入會員清久文太郎君は群馬縣前橋市の人にて在米中の殆んどが浦田君、丸山君、大井君等と共に各種の事業に共同して來られ現在も小生等仲間野密組合の會計に候
出野春雄君は先頃當地を引揚げ北部加州のターロツクと申す田舎に他の同胞の經營して居つたランナ（畑）を買受け自身獨立農業に従事致され候排日の加洲にて我同胞は其れなく其方法にて土地を所有致し奮闘致し居候事は右の出野君の例にて御丁知被下度候
二月分四五七號月報全部配布済、瀧澤幹事に上田新開難有支部員一同より紙上を借用御禮申上候、尙ほ時々御通信を願候